

第二章 再核軍備

第二章 再核軍備

元々ソシア連邦の一員だったウクライナーは連邦崩壊の機に独立する。国民は旧ソシア連邦
回帰派とヨーロッパ連合加盟派に分かれていたので選挙のたびに政権が入れ替わる。やがてヨ
ーロッパ連合派が優勢となり政権も安定する。

ヨーロッパ連合というのは旧ソシア連邦と異なり様々な価値観を持った国民がそれぞれの国
家を作ってお互いを認め合って隣組を形成する程度の粘着力でくっついた集合体である。だか
ら居心地がいいから息をするのもままならない旧ソシア連邦から独立した国々は新しい空気を
求めて特急列車に乗ってヨーロッパを目指した。

広義の鉄道シルクロードは一気に存在感を増した。イリ・ライナーやウク・ライナーは特急
と言えるほどのスピードは出ないが超高速特急のユーロ・ライナーと相互乗り入れすると自由
の空気が東に向かって吹き始める。

ウクライナーはソシア連邦の一員だったところに建造した空母（ブラックシー艦隊の旗艦だっ
た）を中華民国に売り渡した。ヨーロッパ諸国に対して攻撃用の武器を持たないという姿勢を
アピールして仲間にしてもらおうとした。これが後にソシアに隙を与えることとなった。

このようにしてウクライナーは軍事力を薄めてヨーロッパに接近した。このままヨーロッパ

に連合にウクライナーが組み込まれると独裁国家ソシアに自由の波が押し寄せることは目に見えていた。イリライナーも女王イリの力で国力を高めて中華民国から独立したがこれは例外だった。地球の環境が大幅に変わって大砂漠が大湖になったからだ。温暖化や環境汚染の結果という程度の生やさしいものではなかった。項を変えて説明する。

*

以下拙著「トリプル・テンI」を参照。

メキシコ湾という壺の底を塞いでいた宇宙の根源物質と言われるトリプル・テンを女王イリの弟にそっくりな天才科学者ノロによって取り除かれた。底が抜けたメキシコ湾に海水が流れ込むと海底水路網が形成されて砂漠だったところに海水が噴き出した。温暖化で海面上昇が危惧されていたが逆に海面は下降した。陸地が増えて島国の領土が広がった。一方、砂漠の国だったイリライナーは大穀倉地帯となり経済力をつけた。

あふれ出た海水は淡水化して再び大洋を目指して大河となって環流する。結果として地球に新しい水循環システムが構築された。しかし、この幸運を生かせばそれまで食糧事情が悪い国も豊かになって世界中が良い方向に向かうはずだったが、そうはいかなかった。

ソシア連邦が崩壊してその中軸国だったソシアも社会主義国家から民主主義国家へ変わろうとしていた。しかしながらソシア国民はトップダウン型のシステムを好む体質が身にしみていた。なぜかというところから離れていたのと徹底した社会主義である共産主義の大国、

中華民国に隣接していたからだ。ロシア国民は権力の座についたプチレンコンに自由を売り渡してしまった。

プチレンコン大統領は元々ロシア連邦の情報機関の優秀な諜報員だった。目的など知らされずに忠実にスパイ活動するのが任務だった。つまり目的や理由など無視する、言い換えれば結果だけがすべての任務を遂行するという組織の中で育った人間だった。

地球全体を見渡すとか自国民の幸福を最大化するとか言うことに無縁な仕事に携わった者が大統領に就くと、それでもはじめは権力基盤が弱いので遠慮はしていたようだが、すぐに独裁者としてその能力を発揮する。

このことを逆説的に言えば、それは不思議ではなく必然的なことだった。しかし、英知を重ねてきたはずの人類にふさわしい言葉は皮肉にも「不思議」しか残っていない。

*

宣戦布告なしにロシアからウクライナーが攻撃を受けた。多様な考えを尊重する民主主義国家は結束力が弱いと観たロシアの大統領プチレンコンは核兵器の使用も辞さないとウクライナーだけではなく同国を支援する国々を恫喝する。黙っていた方が迫力があるのに言葉にしまったので狂人扱いを受けることになる。つまりほとんどの国々は冷静かつ慎重かつ結束してロシア対策を取ること団結した。結局恫喝が緩やかに結束していた国々を一体化させてしまった。しかもそれまで中立的な立場を取ってきた有力国もヨーロッパ側につくことになった。

第二章 再核軍備

ソシアの迷惑がことごとく外れる。

しかし、ノロの惑星でこのような地球の状況を観ていたイリは再び核兵器を持つ国が現れたことに大きなショックを受ける。ノロの活躍で核兵器はもちろんのこと原子炉もすべて処分されたのに事態は再び悪い方に向かっていたのだ。

イリは故郷のイリ国がイリライナーと国名を変えても女王であることに変わりはない。再び核兵器が開発されて脅しに使われるなど思ってもなかったから、驚くと言うより落胆した。

ここノロの惑星は太陽系が属する銀河とは別の銀河にある。それでもノロの発明した時空間移動装置を使えば瞬時に地球へ行くことはできる。ズータイがでかい宇宙戦艦でも数時間はない。もちろん数時間というのは宇宙での時間の単位ではないが。